

「さんべで科学教室 理科読」

1 趣 旨

- ・家族に体験活動プログラムを提供することで、家族の絆を深めるとともに、「早寝早起き朝ごはん」国民運動をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。
- ・活動を通して、科学に対する興味関心を育む。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和3年10月30日(土)～31日(日) <1泊2日>
 (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
 (3) 講 師 NPO法人ガリレオ工房理事 土井美香子氏
 (4) 後 援 島根県教育委員会 大田市教育委員会 美郷町教育委員会
 (4) 協 力 島根県立三瓶自然館サヒメル
 (5) 対 象 小学生・中学生とその家族(幼児も可)
 (6) 参加者 20家族60名(子ども33名 大人27名) 募集50名程度
 (7) 日程・研修内容

10/30 (土)	14:00	14:30	17:00			19:00	20:30		22:30
	入 所	開 会 行 事 オ リ エン テ ー シ ョ ン	理科読① 「うつるみえるふしぎ」 土井美香子 氏	夕 食 ・ 入 浴 ・ 休 憩	理科読② 「星を見ようよ」 土井美香子 氏 島根県立三瓶自然館サヒメル	就 寝 準 備	就 寝		

10/31 (日)	6:30	7:00	7:30	8:50	9:30	～	11:30	12:00
	起 床	清 掃	朝 食 ・ 休 憩	退 所 点 検	理科読③ 「地球は大きな磁石」 土井美香子 氏 島根県立三瓶自然館サヒメル	閉 会 行 事	解 散	

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

- ・家族の絆を深めるために、小学生の参加者分の工作・実験キットを配付した。このことにより自然に親子が協力する場面を作り出すようにした。また、交流の家に寝泊まりすることで、「早寝早起き朝ごはん」国民運動をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行った。
- ・身の回りの不思議に目を向け、絵本や本で調べたり実験したりする楽しさを体験し、科学に対する興味関心につなげた。
- ・1日目は、見ることを中心として、「うつるみえるふしぎ」から「星を見ようよ」をテーマとした。1コマ目の「うつるみえる」では、光が反射することによって物体や色が見えること、鏡を使うとどのように映るか等を実験した。さらに、その仕組みを利用し潜望鏡をつくり、これらの仕組みが世の中で活かされていることを体験的に学べるようにした。2コマ目の「星を見ようよ」では、簡単な望遠鏡を作って、レンズの働きや焦点などの仕組みを学べるようにした。
- ・2日目の理科読3コマ目の「地球は大きな磁石」では、磁石(磁界)の不思議を体験し、ビニタイを使って磁界が見える化することにより、磁石の性質を学ぶことができるようにした。
- ・関連する本や絵本を、近くに置いておくことにより、疑問に思ったことを参加者はいつでも調べることができるようにした。

(2) 運営（連携）のポイント

- ・今年度も引き続き、日本中の小学校や保育所などを回りながら、理科読を広めているガリレオ工房理事の土井美香子氏と連携することができた。
- ・絵本を読み聞かせたり、実験・実演したりするときに、実物投影機で拡大して映すことで、遠くにおいてもよくわかる内容となった。
- ・隣接する島根県立三瓶自然館サヒメルから職員を派遣してもらい、天体望遠鏡や星の話を直接聞くことで、プログラムに深みと広がりが増えた。
- ・大田市や美郷町の図書館に協力していただき、それぞれのテーマに沿った本を各50冊以上そろえることができた。

(3) 広報のポイント

- ・島根県の東部と中央部の小学校3，4年生にチラシを配布した。当所ホームページや Facebook に掲載し、広く募集することで、県外からの参加者も複数あった。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	68	32	0	0
プログラム	58	42	0	0
運営	68	32	0	0
職員の対応	84	16	0	0

(2) 参加者の声

- ・親子でゆっくり、じっくり体験できる機会はなかなかなかったので、とてもうれしく思いました。理科関係本の読み語りもすごくよかったですし、関連本もたくさん展示してあって、子供たちも喜んで読んでいました。「理科」×「読書」の組み合わせは予想以上でした。
- ・下の子には、工作が難しそうでした。途中でイラっとして投げ出したりしてやれやれと思いましたが、「明日もあるよね。明日も作りたい。何を作るんだろう？面白かった。」たくさんの言葉が出てきてうれしかったです。難しくてもチャレンジできたから出た言葉でした。

5 成果と課題

《成果》

- ・絵本や実験を通して、参加者の科学への興味・関心を引き出すことができた。周辺の施設との連携が昨年度以上に強まり、島根県立三瓶自然館サヒメルの方には、中心となってプログラムの指導をしていただく場面もあった。また、大田市立中央図書館、美郷町立図書館には、多くの本をお借りするとともに、各市町教育委員会の後援をいただき事業を実施することができた。

《課題》

- ・参加家族の中には兄弟での参加があり、年齢層に大きな幅ができた。そのため、低学年の児童や幼児にとっては難しいと感じる内容があった。運営にあたっては、スタッフや法人ボランティアで、保護者の手の届かない低学年児童や幼児をフォローする体制を見直す必要があると感じた。



(絵本を朗読する土井氏)



(親子で望遠鏡を作る様子)



(磁石を使った実験の様子)

(担当：事業推進室長 宅間 邦晴)